

明日のため今日の
日本を知る調査

10月1日(水) 国勢調査

5年ごとの見直しです。
10月1日、国勢調査。



50 昭和 55 昭和 60

国勢調査

昭和55年10月1日(水)

総理府統計局 山梨県

国勢調査の対象は、全国1億1,700万人。

十月一日、全国一斉に
国勢調査が行なわれます。

国勢調査は国の最も基本的な、かつ大規模な調査で、大正九年の第一回以来、五年ごとに実施され今回ですでに十三回目。わが国人口の高齢化が進むなかで、その実態を明らかにし、社会福祉や雇用などの行政に生かされるほか、住宅、教育などが国が抱えるさまざまな問題への大切な資料となり

国勢調査よもやま話

国勢調査は、今回で十三回目になります。第一回は、大正九年十月一日に行なわれています。この頃は、調査項目もきわめて少なく、十二項目余りの簡単なものでした。

ます。

さらに、今回は国連のすすめで世界各国が参加する「1980年世界人口・住宅センサス計画」の一環として、国際的にも重要な意義をもっています。調査の対象は国内に住んでいるすべての方です。九月二十四日から三十日までに、調査員が皆さんのお宅に調査票の配布に伺いますので、ご協力ください。

調査員は、調査員の任命辞令を受ける際には、紋付き袴のいでたちで正装し、緊張した面持で交付式に臨んだそうです。

また、調査を受ける各家庭では調査員が訪問すると、家長（この時代では、世帯主のことをこういう表現で呼んでいた。）を筆頭に、全員正座で並び、調査員の質問に応じたという話です。

この写真の三重杯セットは、小野七九三番地、重森啓一郎さんの土蔵から発見されたものです。

重森さんの祖父は、旧開地村役場の収入役を長年にわたって勤めた方で、大正九年の第一回国勢調査では、調査の陣頭指揮にあたったことから、記念品として、この杯セットを国から贈呈された訳です。経済構造が脆弱なこの時代に、このような高価な記念品を、全国の調査員に贈ったことから、国勢調査のもつ意義の重大さがうかがわれます。

